

Feature

PARIS 



photo: Le Jardin de Verre by Locke, Bibie photo&text: Tomoko Yokoshima

ART FOOD FASHION EVENT NEWS SPOT



01_ベゴニア・スイート、ペントハウス・スイート、2つの格調高いスイートルームを含む、全11カテゴリ・145の客室がある。この部屋は67㎡あるスイート・ロゼレ。02_45㎡のファミリアル・スイート、同系色でまとめた調度品が美しく、シンプルながらも機能的。03_静かなパリの家並みの眺望に安堵感を感じる33㎡のテラス・スイート。04_41㎡のスイート・ベゴニアはグリーンがベース。全体的に大きな部屋には食器洗い機と洗濯機も完備。ただし浴室はシャワーのみ。

ロンドン発信のデザインホテル『ロック』がパリに進出。



05_コワーキングスペースのカフェ。スイーツでティータイムを楽しむのもいい。06_スタイリッシュなバー。07_コワーキングのお洒落な空間に身を置けば仕事もスイスイ進むかも? 08_6月3日にオープンしたばかりのレストラン「ビビー」は朝から夜までフル回転。ランチとディナーは地元の食材を使ったオーガニック料理で、新鮮かつ軽い味付けが◎。09_絶品ソースのアーティチョーク。(€13)10_スープドクワッソンは、魚の臭みを感じさせない優しい味付け。(€24)11_ジュシーに仕立てたエイ料理。(€25) 12_半熟卵と多種野菜にビュレを添えたウップバルフェ。(€14) 13_フレッシュチーズとヨーグルトのフォンテーヌブロー。(€14)14_メレンゲがサクサクのバヴロヴァ。(€13)



Le Jardin de Verre by Locke
ル・ジェルダン・ド・ヴァール・バイ・ロック
address: 7 rue Lacépède
75005 Paris
tel: 01 87 70 63 10
open: 7:00~翌2:00(カフェ&レストラン)
www.lockeliving.com/fr

パリの長い歴史を物語る五区に隠れ家的な複合型ホテルが誕生

パリの右岸と左岸は昔からいろいろなカテゴリーにおいて比較されてきたが、高い地区の右岸は大型ホテルが多く、知性の左岸には大きな違いがある。特にパリ最古の地区の1つとされるカルチエラタンにおいては、マンモスホテルはないに等しかった。ローマ遺跡やバントオン、植物園、石畳の小道を象徴とするこの五区に突如現れたのが、今ご紹介する複合型ホテル「ル・ジェルダン・ドウ・ヴェール・バイ・ロック」だ。

小さな入り口からはまったく想像がつかないこの巨大な敷地は、16世紀の2つの邸宅と19世紀の工場を合わせたもので、エントランスは18世紀の旧邸宅部分という構成。ヨーロッパで幅広く展開するイギリスのアパートメントホテルブランド「ロック」が経営するこのホテルは、パリが17軒目となるそう。

ロンドンとロサンゼルスを拠点とするデザイン・スタジオ「フェトル」が設計を担当し、パリっ子が大好きな自然との関わりをインスパイアされた結果、自然光や観葉植物に囲まれた心地いい空間に仕上がった。そのナチュラルな世界観はもちろん、中間色で彩られたニュアンスのあるカラーパレットも、このホテルのもう1つの魅力でもある。

施設内には宿泊者でなくともアクセスしやすいカフェ、バー、レストラン、さらにコワーキングスペースもあり、早くも自前のパソコンを持ち込み仕事に勤しむ近所のパリジャンの姿でいっぱい。この左岸における唯一無二のコンセプトホテル、次のフランス旅行の宿泊候補に入れてみない?